

本を選ぶ

NO.469 2024年(令和6年)6月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>クレソン ィ

●図書館を離れて (第61回)
—好奇心のままに—



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

クレソン ィ

春先に花が咲いたイタリアンパセリを放置していたら、やがて種を付けていた。きっと去年の秋にも同じようにそんな種がこぼれて実生が育ったのだらう。形がいいので、穂先を切って瓶に差したら案外可愛い。

眺めていて思い出したのは、フランス中部オーブブラックのライヨール地方のオーベルジュ<ミシェル・プラス>のロゴマーク。シストルという地元原産のハーブ^{かたど}を象っている。イタリアンパセリの穂の形とは違うが、雰囲気は似通っている。

ライヨール(ラギヨールと発音する人もいる)は、中世以来のチーズの産地としても知られているが、何と言っても刃物やカトラリーの製造で名高い。そして天才料理人ミシェル・プラスの本拠地でもある。レストランのカトラリーはすべてライヨール産。

辻静雄の半生を描いた名作『美味礼賛』(海老沢泰久著/文春文庫/1994年)に「二ツ星だったレストランが一ツ星に落ちたのを悲観して、ピストル自殺をした主人」についての一節が登場する(170頁)が、これは実在した三ツ星シェフ、ベルナール・ロワゾーであろうと思われる。ロワゾーはブルゴーニュのソーリュウにレストラン、ラ・コート・ドールを開き、1991年に三ツ星を獲得した天才料

理人である。幾人もの日本人がロワゾーに師事し、その薫陶を受けている。

『シェフ』(ゴートイエ・バティステッラ/田中裕子訳/東京創元社/2023年)はミシュラン・レストラン・ガイドの編集部員だった作者が小説家に転身して3作目。ここでも三ツ星シェフ、ベルナール・ロワゾーがモデルとされる人物、ポール・ルノワールが主人公の小説だ。やはり主人公が三ツ星陥落を危惧して自死する顛末になっている。ミシュラン三ツ星選考の帰趨は料理人の人生を決する一大事なのだらう。数々の文学賞を受賞し、フランス本国では大きな反響があったようだ。

北海道のザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパを会場として洞爺湖サミット(第34回主要国首脳会議/2008年7月7日から7月9日)が行われ、そのレストラン・ミシェル・プラス・トーヤジャポン(2002年に初の海外支店として出店)が各国首脳の昼餐の場となった。(契約満了で2020年閉店)

ミシェル・プラスのレストランでは、前菜として必ずガルグイユ(gargouillou)が供される。その土地でその日の朝採った数十種類のハーブと野菜を組み合わせたサラダであるが、味のみならず見事な彩りに客はうっとりするらしい。

だが、息子のセバスチアンに譲ったオーブブラックのオーベルジュレストラン<プラス・スーケ>は、1999年に獲得して以来維持してきたミシュランの三ツ星を2018年に返上すると宣言した。ガストロノミー(高級食料料理)業界の厳しさと、維持し続ける重圧から解放されたいためなのか。(埜村 太郎)

図書館を離れて (第61回)

— 好奇心のままに —

並木 せつ子

シンデレラの名まえ

「いいとよい」について調べている時に偶然みつけたのが「おおかみと7ひきのこやぎ」。わき道にそれて、それを調べている最中にも、目の端にはもう「シンドレラ」やら「シンダレラ」やら面白そうな名まえがちらついていた。現代の目から見れば、明治期の翻訳物におかしい点や面白い点があるのは当たりまえで、いちいち取り上げていたら切りがないとは思っても、つつい好奇心に駆られてしまう。

とはいえこうした好奇心に、いささかの後ろめたさを感じるのは、<これまでの研究ではどういうわけか「丸髻を結ったお姫様」風のシンデレラのほうのみに好奇のまなざしがむけられてきたが、<西洋文学の受容史研究という観点にたてば、それは重大な欠陥というほかはないだろう> (*1) という批判めいた文章に出くわしていたからである。確かに、明治期の翻訳者や画家が苦心して、西洋の文物を日本人にもわかるように努力したものを、後世の人間がとやかく言って笑うなど我ながら“けしからん”と思う。でも面白いものは面白いのだ。調査とか研究とか高尚な目的があるわけではない、興味の赴くまま、明治期の「シンデレラ」がどんな名まえだったか、併せて「ガラスの靴」はどのように表現されているかを見てゆきたい。

「シンデレラ」は世界中に類話が存在する昔話だが、今日の日本で最も流布しているのはディズニー映画の「シンデレラ」だと、<調べたわけではありませんが、確信を持って言えます> (*2) と、横川寿美子は断言する。ディズニーはペロー童話の「サンドリヨン」を原作としていることもあり、多くの日本人が、“舞踏会用の衣服や馬車をシンデレラに用意してくれる場面”で登場するのは妖精（魔法使い）という、ペローの物語を思い浮かべるだろう。グリムの“母の墓の前で鳩（白い鳥）が用意してくれる”という話の方を思い浮かべる人が、そう多くいるとは思えない。ところが今回確認できた明治期

の「シンデレラ」8点では、妖精・仙女・女神などペローのタイプも、鳩・白い鳥が出てくるタイプもあまり数は違わなかった。確かにディズニーの影響力は大きかったと言えるだろう。

ペローの「サンドリヨン」も、その英訳「シンデレラ」も、ドイツ語の「アシェンプテル」も、「灰まみれの女の子」「灰かぶり」というような意味合いだが、その辺りは明治期にもかなり意識されている。

1887（明治20）年『西洋古事神仙叢話』所収の「シンデレラの奇縁」は<“シンデレラ”即ちおすゝと呼びける>とあり、シンデレラではなく「おすゝ」という名で話は展開する。「お煤^{すす}」ということだろう。靴は<金銀で飾った踏舞履>でガラスではない。踏舞履には「おどりぐつ」というルビがあった。

1891年『幼年雑誌』に所載されたのは「清き貴女」。名は<シンドラー（シンドラ）>。靴は<瑠璃の靴>。「瑠璃」には「ガラス」とルビが振られている。

1891年『西洋妖怪奇談』の「シンドレラ嬢奇談」には<訳者は仮に「欠皿」と名く>という記載があり、「かけざら」とルビがある。最初は<欠皿>の名で、姉たちがシンドレラ（「灰燼の義」という訳者註あり）というあだ名を下した後は、<シンドレラ>で話は進んでゆく。仮の名とあだ名だけの主人公なのだ。訳者は姉たちにも<紅皿と菊皿>という仮の名をつけている。靴は<金の靴>。

1896年『西洋仙郷奇談』所収「燠娘」は<燠娘>が主人公の名まえ。「ふすぼり」とルビがある。「燠」は「ふすぼ（ぶ）る」とも読み、意味は「くすぶる」と同じ——、おそらく Cinderella という原名を意識したのだろう。靴は<玻璃^{はり}の上履き>で、「ガラスのスリッパ」とルビが振られていた。

1899年『少年世界』所載の「踊靴」も名まえが無い。仮の名も、あだ名も一切出てこず、<娘は…><「これ娘…」>のように、「娘」という普通名詞のみで物語は進行する。舞台がイギリスと特

定されていて「昔し英国のとある町に……」と始まるのも、他にはない特徴だ。靴は「硝子の踊靴」で、硝子のルビは「びいどろ」。

1900年、坪内雄蔵（逍遙）著『國語讀本 高等小学校用』に載っているのは「おしん物語」。おしんという名はシンデレラの音からの発想か？ 灰かぶりの意味は考慮されていない。おしんは粗末な着物で下女のように働かされるが、園遊会の日「一尺ほどの小さな弁天様」が現れ、着物や帯、馬車を用意してくれた。門限は「夕方の六時」、夜中の12時にしなかったのは教科書だからこその配慮かもしれない。置き忘れるのは靴ではなく「波に白菊の模様」の扇だった。

1909年『家庭お伽噺』所収の「真珠姫」、名まえはタイトルと同じだが、なぜ真珠なのかは不明。下女のように扱われても、汚い仕事着を着ていても「真珠姫」、灰かぶりからは遠い名まえ名まえだ。靴は金の上靴。

1909年『世界新おとぎ』所収の「出世の靴」では、名は「シンデレラ」、姉たちから下されたあだ名は台所姫。物語はシンデレラという名で進む。靴は「^{はり}ガラスの上靴」（ガラスはガラスの意）と「絹で作った長い足袋」。“黒の裾模様、黄色い銘仙の着物”なども出てくる“和洋折衷度”の高い作品だ。

現物確認できなかったものに、1886年「新貞羅」、1909年「シンデレラ」、1909年「モエガラ娘の話」などがある。明治期の「シンデレラ」は名まえだけでも多彩だった。さし絵のある作品は少ないが、「清き貴女」、「踊靴」、「出世の靴」には、今見てもあまり違和感のないシンデレラが描かれていた。「燦娘」「おしん物語」のさし絵は日本髪に着物姿で、現代から見れば違和感はあるが、読者にとって身近に感じられるという利点もある。教訓を伝えるという目的のためには効果的だったかもしれない。

参考資料：（＊1）『児童文学翻訳作品総覧3』ナグ出版センター／2005年 （＊2）『シンデレラの多様な世界を楽しもう』大阪国際児童文学振興財団／2022年

しゃべる自動販売機

日常生活の中にも好奇心の種は潜んでいる。他の人から見ればつまらないことであっても、つい

うっかり引き込まれてしまうことがある。これは、20年以上前、出勤途上にあった自動販売機（以下自販機）にまつわる、私自身の好奇心の顛末である。それは自宅近くの踏切そばにある2台の自販機で、元々は角店のタバコ屋だった。普段使ったことのないこの自販機、——その朝はふと飲み物を買おうと思いつき、まずお金を投入した。すると、いきなり明るい声で「おはようございます」と挨拶するではないか。そしてペットボトルとおつりが出ると「ありがとうございました。おつりをお忘れなく」と言う。“余計なお世話”と思いつつ立ち去ろうとしたら、さらに明るい声で「いってらっしゃい！」。煩わしいと思いながら考えた。夜になったらなんと言うのだろうか？

その夜の帰宅途中、私はほしくもない飲み物を購入するため、あの自販機の前にいた。「こんばんは」という夜用の挨拶になっているのを確認すると、お決まりの「ありがとうございました。おつりをお忘れなく」があり、さらに「お疲れ様でした」とまで言ってもらったのである。——ならば、昼だって確認したいではないか。この自販機は通勤途上にあるので昼間はなかなか使う機会がない。D社の自販機だったから、あちこちにあることはあるが、ここまできると“やはりあの自販機で”という妙なこだわりが芽生えていた。やがて昼に買う機会を得て確認。昼用の「こんにちは、冷たいお飲み物はいかがですか」という挨拶、さらに「午後もがんばってください」と励まされた。時間によってちゃんと変わっていたのだ。ならば朝から昼、昼から夜は、いつのタイミングで変わるのか、夜中はどうなっているかと新たな疑問はわいてくるものの、そこまで確認する根性もなく、労われ励まされたことに満足して、私の自販機問題は一段落（いちだんらく）したのだった。

ところが数年後、またD社の自販機と関わることになる。自転車に乗って出かけた先で——暑い日だったので飲み物を買おうとすると、そこにあったのは偶然D社の自販機だった。投入口にお金を入れたとたん男性の声で「こんにちは～（関西弁のイントネーション）」という挨拶。ペットボトルを取り出すと「おおきに～」。これにはびっくりだ。

そのあとD社の自販機を何か所か試してみたが、関西弁の自販機はそこだけだった。ずっと後にそこを通りかかったときには、無言の自販機になっていた。踏切のそばにあったあの明るい声の自販機も、最近試してみたら無言だった。最初は煩わしいと思ったのに、この寂しさは何だろう。それにしても、D社は私の好奇心のおかげで、この時期の売り上げを随分伸ばしたはずである。

遅ればせながら、この度D社のホームページを確認してみた。500mlのペットボトル対応自販機が始まったのは1997年、「おしゃべり自販機」が2000年、「おしゃべり自販機関西弁登場」は2003年だった。また「おしゃべり自販機」は関西弁だけではなく、北海道・津軽・盛岡・仙台・ふくしま・名古屋……など各地の方言版があるということも初めて知った（九州や四国方面が多いようだ）。別の資料（*1）によれば、2010年にK社の「名古屋ことば自動販売機」が設置されたとか。＜河村たかし市長と中部地方人気タレントの「名古屋弁」による音声メッセージが流れる＞のだという。ならば埼玉弁で「好きな飲み物のボタンをおっぺしてみい」「また来やつせ〜」としゃべる、地味な自販機があってもよさそうなものだ。

現在日本は世界でも有数の「自動販売機大国」のようだ。日本の自販機は明治中期に始まり、切手はがき、入場券、菓子、タバコなど一部で利用されたものの、本格的な普及は1950（昭和25）年に降だった。中でも飲料の自販機はとりわけ成長目覚ましく、始まりは1957（昭和32）年、「噴水式の10円ジュース」だった。このカップ式のジュースは、その後に続く瓶コーラ自販機や、コーヒーの自販機とともに、日本の飲料史の新たなページを開いたといっても過言ではない。戦前の日本人にとって、ジュース、コーラ、コーヒーは、決して身近な飲み物ではなかったからだ。

“しゃべる自販機”は、「噴水式10円ジュース」を開発した星崎電機が、1960年「テーブルコーダー内臓の音声付き機械」を少数製造したが、＜工場長が「毎度ありがとうございます」という声を吹き込んだんだけど、まあ、汚い声で、発音は悪いし、

使っているうちにテープは徐々にずれてくるし＞（*2）という具合で普及には至らなかった。

それから10年余り後、『国際商業』（1973年6月号）に掲載された「機械がしゃべると人間らしくなるのか？」という記事に、当時の“しゃべる自販機”の例が紹介されている。

＜「ちょっと待った！ 100円たしかにもらったよ。ペンペンペンペン（三味線の音）待てばあ出てくるハンバァガー……」／お金を入れると突然ナニワ節をうなり出すハンバーガーの自販機がある＞と紹介されている。温めるのにかかる30秒間、客をいらだたせないようにするため考えられた工夫だという。

＜「ご当地ビールはナニ？ サントリー」／「ドウモ、ドモ、アリガトウ」……＞と大橋巨泉がしゃべるのは＜自販機そのものを宣伝媒体として利用しようという……＞自販機。

当時の人気テレビマンガのヒーロー「アストロジンガー」が＜お金を入れると、目、胸のマークが光りはじめ、首をふりながら子どもに話しかける＞という玩具の自販機に至っては“自販機”の範疇を越えているような気もする。これらは当誌が発行された1973年ごろの状況で、自販機が人間らしさを目指していたと言えなくもない。

1979年の秋に＜より便利な、より親切なそしてより人間らしい自販機の理想を目指す開発研究の中から1つのアイデアを具体化したもの＞として「しゃべる自販機（トーキングダベンダ）」が自販機ショーに出展された（『自動化技術』12（6）1980年）。こうした変遷を経て1980年代以降“しゃべる自販機”は広く普及していった。その後も冷熱対応、カード対応、電子マネー対応、省エネ対応、災害対応など、自販機は「進化」し続けているらしい。

その「進化」の一つかもしれない、しゃべる販売機よりはずっと後のことだ。JRの駅やホームで液晶画面に飲み物が表示される自販機が登場した。前に立つだけで、その人の年齢やその他諸々を判断して、その人にふさわしい飲み物を画面に表示する——液晶画面上の該当飲料に「あなたにオススメ」と表示し、その商品だけ口で囲むとい

うもの。これも余計なお世話とは思ったが、買う気の無い人にも「あなたにオススメ」の商品を表示するのがよいところ。またもや、この液晶タイプ自販機を見るたび、前に立つようになっていた。「今日は何を勧めてくれるかな」と毎回楽しみにして立つのに、いつも「緑茶」か「水」、たまに「コーンスープ」なのだ。「オレンジジュース」や「コーヒー」は勧めない。その後も、かたくなにお茶や水を勧める自販機の前に立ち続けたが、どのくらい経った頃だったか、前に立っても反応しなくなってしまった。それからは何度試しても同様だった。

もしかして自販機が「この人は前に立つだけで

買わない人」と学習してしまったのだろうか、と思っているうちに新型コロナ感染症の流行で実験は中断。3年後明けてみれば、その液晶タイプの自販機そのものが減っていた。たまに見かけて前に立っても人によって反応を変えるようなことはしない。JRの方針であの機能そのものが廃止されたのか、自販機が今も根に持っていて反応してくれないのか、それは定かではない。

参考資料：＊1『自動販売機：世界に誇る普及と技術』日本食糧新聞社／2012年 ＊2『自動販売機：マシン時代の道化師たち』INAX／1988年 『自動販売機の世界文化史』鷲津力著／集英社／2003年

(なみき せつこ)

DMかたろく

古代・近代・現代のオリンピック

大熊廣明 監修 稲葉茂勝 著

さまざまな角度からオリンピックをわかりやすく解説。歴史から見つけた面白い情報や最新の情報が満載。読めば知識に幅と深さが増し、観戦が一層楽しくなる1冊。

【シリーズ・とは何か?②】
A5判美装カバー368頁 3080円



ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

ガスライティングという支配

情緒のコントロールによる傷つきと回復(仮題)

アメリア・ケリー[著] 野坂祐子[訳]

親子、カップル、上司・部下などさまざまな関係性において、力を持つ側が相手を心理的に支配するガスライティング。その事例と、そこから脱け出すためのワークを多数紹介する。



●予価2420円(税込) ISBN 978-4-535-56428-2 (7月中旬刊)

不登校・ひきこもりは変わる

家族・支援者ができる「心の元気」充電法

本場律志[著]



本人? 家族? 学校? 誰が悪者をめくって行き詰まりがちな不登校・ひきこもり問題。「心の元気」に着目すれば変化が起こるはず。

●予価1980円(税込) ISBN 978-4-535-56429-9 (7月中旬刊)

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 <https://www.nippyo.co.jp>

高校の日本史教科書シェアNo.1の出版社による、
これからの日本史を考える新シリーズ発刊!

なぜ、教科書の内容は
変化していくのか——?



現在日本史の
全6巻

定価 各3,300円(本体3,000円+税10%)

2024 1 考古 2024 3 中世 2024 5 近現代①
5月 刊 2 古代 6月 刊 4 近世 7月 刊 6 近現代②

山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 <https://www.yamakawa.co.jp/>

哲学って なんだらう?

DK社/編
山本貴光/訳

哲学の基本がわかる図鑑

10歳から大人まで楽しめる
哲学の入門書

古代ギリシア哲学から
21世紀の現代思想まで、
イラストでわかりやすく解説。



定価：2420円(税込)
978-4-487-81663-7

◀詳しい内容はこちらから

東京書籍

ティム・クレイン／
土屋賢二・金杉武司 監訳

心は機械で作れるか [原著第3版]

心的表象と因果性を軸とした心の哲学の
入門書、待望の新版登場！ 4840円



赤川 学

セクシュアリティの 歴史社会学 [新装版]

近代日本のセクシュアリティ言説形成過
程を検証した名著。 6050円



TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

教訓を生かそう！

日本の自然災害史

関東大震災から100年 どうのりこえた？



日本の過去の自然災害の歴史を知って、今後の災害対策につなげるシリーズ。巻ごとに代表的な災害を年代順に構成。巻頭では災害のキーワードなど基本知識を解説します。

山賀 進・監修

●揃定価：揃本体12,800円＋税 ●全4巻

●A4変型判(29x22cm)/各48頁

●ISBN978-4-265-11121-3

●小学校中学年～中学生



この1冊が未来をつくる



〒112-0005 東京都文京区水道 1-9-2-2 階
TEL 03-3812-9131 FAX 03-3816-6033

女性法律家 復刊版

三淵嘉子(元裁判官, 元弁護士) 執筆者代表

今から40年前の昭和の時代に、13人の法律家が「自身の言葉」で語った、法曹の世界、そして自らの仕事や後進へ託した熱い想い。いつの時代も、人が真摯に取り組む姿は、美しく、カッコイイ。

そんな感動と共感が得られる名著、ここに復刊。



四六判並製 276 頁 2,530 円



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

価格は
税込

ESTRELA

■2024年6月号

No.363/6月10日発行

B5判 64ページ

定価1,205円(税込)

[特集] 人口動態と環境の新たな相互作用

■特集によせて／

井上 希(国立社会保障・人口問題研究所国際関係部 主任研究官)

■脱炭素社会の実現に向けた日本の排出削減シナリオ／

増井 利彦(国立環境研究所 社会システム領域長)

■極端な気象現象に伴う人口移動：人口データと自然環境情報の統合の重要性／柿沼 薫(アブドラ王立科学技術大学 Research Scientist)

■プラネタリーヘルス：研究と実践の枠組み／

渡辺 知保(長崎大学大学院 プラネタリーヘルス学環教授)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5 階

TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

男はなぜ 孤独死 するのか 男たちの成功の代償

トーマス・ジョイナー [著]
宮家あゆみ [訳]



自殺問題についての第一人者が、男性の性質を分析し、孤独死を回避するための処方箋を提示。 2420円

晶文社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
TEL 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

かがくるBOOK 科学漫画

サバイバルシリーズ〈2024年 新刊セット〉

テレビアニメ化決定！



新作「水害」「下水道1・2」「巨大地震」と、改訂版「昆虫世界1～3」「恐竜世界1・2」の新刊セット。学術的に古くなったコラムを最新情報に書き換え。更新をお願いします。

文：洪在徹(ほか)／絵：韓賢東／全9巻

揃定価11,880円(揃本体10,800円＋税10%)

NDC369ほか／B5変型判／平均190頁／ISBN978-4-02-332089-5

朝日新聞出版